

一人ひとりが生き活きと 輝ける社会を目指す活動

佐藤

村議のお仕事もされて大変お忙しい中で、O☆RA☆DAの活動では代表も務められている早坂さんですが、まずは団体発足の経緯や活動内容について教えてください。

早坂

平成24年、地域における男女共同参画を推進し地域課題を解決していくため、最上総合支庁が主催した最上地域の女性団体ネットワーク構築事業「ふるさとを元気に〜女性から輝くもがみの地域づくり初めの一歩〜」で各地域の女性団体や市町村が連携し、アクシオンプランを発表したことが立ち上げのきっかけです。翌年発足したのが「地域づくり応援団キラッとO☆RA☆DA」です。最上地域における男女共同参画社会推進のため、50〜70代の真ん中ばんちゃん世代の女性を中心となって、**最上に住むみんなが輝きながら助け合える地域社会を目指す活動**を行っています。メンバーは民間、行政の枠を超え、多方面で活躍しながらそれぞれが別団体にも所属しています。メンバーが有する情報、ネットワークを活用することで分野を超えた層の厚い取り組みにつながっています。活動は、地域再発見のための見直しや食を通じた異世代交流に自分磨きなどがメインになっています。



Mogami Women's Festivalで関根近子さんを囲んで

(平成27年11月21日)



佐藤

私たち最上地域女性応援会議が誕生したきっかけも「生き活きモガシヨ養成講座」という最上総合支庁主催の事業でした。日々の生活の中にある課題や疑問を解決して一人ひとりが輝いて暮らしていくため何ができるかを考える講座で、最終的に3つの課題解決プランを作成しました。それを案だけに終わらせず実行していくために団体を発足させました。

活動初年度となる平成27年度は、メンバーそれぞれが「テキルオンナ」を目指して企画したスキルアップ講座を2回、ちよっぴりお洒落をしてお酒を飲みながら女性活動者らが情報交換をする交流会を1回「Mogami Women's Festival〜最上地域の女性の祭典〜」と題したイベントを開催しました。フェスでは女性ならではの視点で企画した4つのワークショップと、当時、株資生堂の常務執行役員を務めておられた最上町出身の関根近子さんを講師にお招きした講演会は特に反響が大きく、定員を上回る参加者が集まりました。活動2年目となる今年度は、最上地域で活躍している女性を発掘し、地域内外に発信する事業を展開しています。

佐藤

私もモガシヨの代表をさせていただいています。代表とは名ばかりでメンバーにおんぶにだっこの状態というのが現状です。早坂さんは代表をされていて大変だと思っておりますか？

早坂

うちの場合は個々のメンバーはそれぞれの地域で活躍している方々なので、皆さんの意見が出てくるんですね。それをもとにまとめるのが一番大変かな。

佐藤

そうですね。こういう団体で活動しようと思う人は、熱い思いや自分の考えをすでに持っている人が多いですからまとめるのは大変ですよ。私も最年長ということと、前身の講座の企画に携わったという経緯から代表を引き受けましたが、基本的には自分がどうこうというより、まずはメンバーがやりたいことを実現していければと思っています。迷った時は原点に振り返って、それを全員で共有していけば継続していけるのかなと思っています。早坂さんはO☆RA☆DAの活動の中で「やってきて良かった」というエピソードはありますか？

早坂

「地域の宝を知ろう」シリーズで、自分たちの身近な町や村を再発見できたことが良かったですね。メンバーからも「参加してよかった」という感想が多く寄せられました。私たちは団体名にも記されているとおり「地域づくり応援団」ですから、「ここに住む人々の望むことや取り組んでいることを応援できたら」と思って

活動における課題、

今後の目標や方向性